

豊前市立図書館一般図書選定基準

1. 基本方針

- (1) 特定の主義・主張に偏ることなく公平に収集する。
- (2) 資料費を考慮し、市民の要求に根ざした蔵書構成を図書館員等の協議を深めながら分野別に体系的に収集を行う。“図書館は有機体である”ので、その蔵書構成が実際の利用実態・サービス方針と懸け離れていないかを定期的に確認・修正する。
その際、国立・他自治体との相互貸借の有効活用を加味して収集する。

2. 部門別選定基準

《0 総記》

- ◇情報科学・コンピューターの分野については、個別機種の解説書は原則として収集しない。
- ◇事典類は、その記述内容が現実と著しく異なってきたものは、最新のものを収集していく。また、個々の事象を蔵書として取り扱っていくには難しい事項の事典を揃えていくことを十分考慮する。
- ◇全集類は、基本的なものについてはなるべく揃えてしまえるように数年計画を立て収集していく。

《1 哲学》

- ◇哲学・心理学・倫理学の分野については、入門書・概説書を中心に収集する。
- ◇宗教については、特定のものに偏ることなく、各宗教の原典等を中心に収集する。新興宗教関連についてはその取り扱いに十分注意する。

《2 歴史》

- ◇歴史については、日本の歴史を中心に収集し、諸外国についても基本的な資料を揃えるように努める。専門的な事柄については相互貸借を活用し、基本的かつ体系的に収集する。ただし、郷土史周辺の事柄については、よく収集するものとする。

- ◇伝記については、著者の思想や書かれた年代により、個々人の捉え方も異なるため、特に注目された本・新しい事実を加味して書かれた本については積極的に収集する。日本人・外国人問わず収集することとする。

- ◇地理的分野については、現実とそぐわないものは速やかに新しい情報をもった資料を収集する。旅行書・観光案内についても、利用者のニーズが集中している地域を十分考慮して多くの種類（書籍・ムック・パンフレット・リーフレット等）を収集する。

《3 社会科学》

- ◇全般的に、各主題の基本的なもの・時事性や話題性のあるものを収集する。各主題のなかで利用者のニーズが集中しているものについては、多様な観点にたつよう幅広く収集することに努める。

- ・ 同和問題、部落問題

関係機関に問い合わせながら、利用しやすいものを収集するよう努める。

・ 婦人問題、家庭問題、教育問題

それぞれの問題としてはもちろん、複合的な問題として取り上げられている書籍など多様な観点で収集するよう努める。

・ 福祉

高齢者、障害者など様々な対象を考えて収集する。他の分類の関連する資料の利用頻度にも十分留意して収集する。

◇学習参考書、試験問題集等は収集に際し、十分に協議する。

《4 自然科学》

◇400～489については、収集量が貧弱な状態であるので、図書館利用者の要望・豊前市の産業等を踏まえた事項について、十分考慮しながら基本的な資料の収集に努める。詳細・専門的な資料については相互貸借を利用する。

◇490 台の医学・薬学については、専門的なものは相互貸借を利用し、基本的な事項・身近な事項について収集する。関連機関との連携を構築し情報提供に寄与する。

《5 技術》

◇500～589については、特定のテーマを除き収集量が貧弱な状態である。図書館利用者の要望・豊前市の産業等を踏まえた事項について、十分考慮しながら基本的な資料の収集に努める。詳細・専門的な資料については相互貸借を利用する。

◇590 台の家政については、利用も蔵書数も多い傾向にある。最新の情報、流行にも留意して収集する。

《6 産業》

◇各産業については、入門書・概説書を中心に収集する。専門的なものは相互貸借を利用することも視野にいれ、豊前市に関連する事項については積極的に収集する。定期的に産業に関連する機関への情報収集をおこなう。

◇園芸・ペットについては利用の多い事項であり、最新の情報を盛り込んだ実用書を積極的に収集する。

《7 芸術》

◇市民の教養、趣味、娯楽に役立つ資料を、幅広く収集する。利用者の声として要望がある事項はもちろん、市内で行われている講座などの内容に留意しながら、収集する。

◇マンガについては、流行のコミックスをすぐに購入することは避け、永続的に多くの利用者の要望が集まっている内容のものについて収集することとする。また、表現方法がマンガであるというだけで、扱っている内容が社会問題など様々な分野の入門書的な役割を果たすものなどは、収集する。

《8 語学》

◇外国語辞書は利用が多いと考えられるものについて、優先的に収集する。その判断基準として学校教育での取り扱い、外国籍の市内在住者の動向、旅行・歴史の資料の利用率と照らし合わせていくものとする。

◇方言については、身近な地域についてはさまざまな資料の収集に努め、全国的なものについては基本的なものを揃える。

《9 文学》

- ◇利用者の関心が最も高く、利用率が高い分野である。豊富な資料収集を心がける。各賞の受賞作品・話題を集め多くの人の要望のある作品・利用者の支持が多い作家の新作等の情報収集に努めると共に、普遍的に読み継がれている作品・作品や作家研究の類など収集が必要であると図書館員等の協議で認められたものを収集する。
- ◇リクエストが集中するものについては、一定数を超えた場合、複本を速やかに受け入れる。複本の受入については新規購入のほか、寄贈のよびかけを行うなど工夫する。

3. 郷土資料

豊前市立図書館として、郷土資料が充実していることが、市民及び他自治体在住者にとって重要である。豊前市については、過去・現在・未来にわたって、資料が充実するように、様々な形態の資料の収集に努めることとする。

また、近隣地区（京築地区・広域連合地域・中津市）についての資料も努めて収集するよう、留意する。

- ◇出版物については、出版社からの出版・自費出版ともに、入手できる状態のものは、最低一冊は受け入れる。絶版本については、古書購入を行う。寄贈本に含まれる可能性が高い現在絶版となっているもの・自費出版されたものを積極的に受け入れる。定期的に郷土資料の寄贈を呼びかけるなど収集に努める。
- ◇行政資料・パンフレット・リーフレット類の収集も、関連機関と連携をとりながら入手に努め、保存方法・提供方法を十分考慮するものとする。

4. 逐次刊行物

《雑誌》

雑誌刊行数は、一時期ほどでないにしろ、様々な分野で相当数の出版がなされている。雑誌は書籍に比べ、新鮮さ・即時性・適時性などの点で利用者の欲求に対応していく率が非常に高い。

豊前市立図書館購入雑誌数は他の図書館に比べ少ないので、利用者ニーズ・利用状況を考慮しながら、より多様な分野の充実に努めねばならない。

また、多くの寄贈雑誌があるので、利用されやすい提供方法の工夫に努める。

- ◇週刊及び月刊マンガ雑誌・カタログ販売的性格が大変強い雑誌等は、購入しない。

《新聞》

現在6紙、すべて朝刊のみ購入しているが、夕刊購入や「子ども新聞」の購入も考慮する。

5. LLブック

一般的な墨書資料が活用できない・活用しづらい利用者のために、大活字本・録音図書・DAISY図書・点字図書を含めたLLブック<語の説明参照>の収集に努める。それに伴い、利用の促進をはかるための広報、資料収集・提供に関連するボランティアへの支援を含めた連携等、資料活用拡大に向けて努めることとする。

6. 電子書籍

電子書籍については、現在、公共図書館での取り扱いの方向性が定まっていない。近隣図書館の動向など情報収集をし、図書館職員等協議を経て取扱いをおこなう。

LLブック・・・読みやすく、わかりやすい本

豊前市立図書館児童図書選定基準

1. 基本方針

児童図書として、赤ちゃんから中学生までの子ども達の利用を考えた資料について、豊前市立図書館では、子どもたちの読みたい気持ちに応える図書を揃え、子どもたちの知りたいことを調べることの助けとなる資料を幅広く収集する。

できる限り、広範囲に渡る項目を様々な扱い方をしている図書資料を集めることを主とするため、できるだけ複本を避け、その分多様に収集する。

流通場面での児童書の著しい動き・学校図書館への支援等“保存”という役割が重要になる為、基本資料の収集に努める。

複本として揃えるもの

- ◎全国読書感想文課題図書のようにある時期利用が集中するものは2冊の複本になるよう揃える。
- ◎既に図書館に所蔵している資料のなかで、利用率が高く内容が永続的であり、1冊では利用に支障があると図書館員等の協議のうえ、判断されたもの。
- ◎内容的に一般書だけでなく、子どもたちにも利用を勧められる本であると図書館員等に判断されたものは一般書として所蔵があっても児童書として受け入れる。

原則として収集しないもの

- ◎ゲームブック等特定のゲーム機器のためにしか使えないもの。
- ◎テレビ番組関連のもので、刹那的な要求にしかなりえないと判断されたもの。
- ◎切り抜き、切り取り本等工作・作業されることを目的に出版されているもの。

2. 部門別選定基準

《0 総記》

- ◇百科事典など事典関係については、とりあつかっている分野の事柄に対して、対象年齢の漏れのないように、揃える。
- ◇統計資料が、著しく現状と異なるものは新しい資料を収集する。
- ◇コンピューター関連の資料は、子どもたちが情報処理などのコンピューター活用をする際の様々な段階を取り扱ったものを揃える。
- ◇読書案内本（本を紹介する本）も対象年齢や取り上げている分野がそれぞれ特色がある本を用意する。
- ◇調べ方・まとめ方・発表のしかたといった情報リテラシーを扱った本について、積極的に収集する。

《1 哲学》

- ◇宗教に関する本については、子どもたちに分かりやすいものならば、様々な宗教のものを収集する。片寄って捉えないように特定宗教の批判をするような内容のものは受け入れない。
- ◇哲学・生き方を考える本も、対象年齢に応じて理解できるように書かれているものを

収集する。

◇占い・おまじないなどの本も常時5冊は所蔵している状態に収集する。

《2 歴史》

◇歴史の流れを扱ったものは、日本・世界ともにシリーズで刊行されているもの・個々の時代や事柄についての本ともに、内容が正しく記されているかどうかに留意し、幅広く収集する。

◇伝記については、個々の人物について、シリーズで刊行される際、出版社の編集意図により描かれ方が異なる。複数の出版社や個別の本を用いて多角的に捉えられるよう留意する。

◇地理的分野については、世界情勢の変化に応じて内容が現状と大きく異なるものは、交換する。日本・世界ともに地域に片寄りのないように揃えるが、日本の場合、身近な地域については積極的に収集する。特に豊前市に関する出版物で子どもたちの利用に供することができるものの収集には留意する。また、修学旅行に役立つ旅行案内等を収集する。

《3 社会科学》

◇小学校1・2年生の生活科に対応できるようなものを揃える。

◇“人々の暮らし”という観点で、“人々”の範囲を老若男女・地域差・時代差・身体条件など様々な観点で幅広く捉えて資料を揃える。

◇ボランティア活動などの福祉関係がここに収集されるので、シリーズ本だけでなく、様々な資料を収集するよう努める。

◇民話・昔話についての本も幅広く収集する。同じ題であっても再話者が異なる場合は違う話であると考えて収集する。特に県内のものについては、積極的に収集する。

《4 自然科学》

◇理科（科学・物理・実験など）、天文、地学、算数・数学、動物・植物、からだ、を、学校の教育課程で扱うものを中心に収集する。

◇動物（昆虫）については利用・蔵書数ともに多いが、今後も写真や図・解説の適切なものを積極的に収集する。

◇実験については、学校の長期休暇における自由研究に対応できるようなものも積極的に収集する。

◇科学読物については、論理的な思考・理解に繋がるものなど、多様な資料を収集する。

《5 技術》

◇環境問題に関する本が主にここに収集されるので、積極的に収集する。

◇手芸・料理などの家庭科的な本については、子どもたちの利用に十分たえられるものを収集する。個人差もあってより高度なものを求められる場合は一般書を提供する。

◇からだ（救急）、物のしくみなどの本も極力収集する。

《6 産業》

◇産業については、様々なものを子どもたちに紹介するという観点で収集する。

◇飼育・栽培に関する本は、その利用要求に応じて、全体（飼育百科・栽培百科など）から個々に移行する形で、資料を収集する。

《7 芸術》

- ◇工作関係の本については、対象年齢・材料・用途などがなるべく重複しないように多様なものを収集する。
- ◇作品鑑賞に関する本については、その表現方法が多岐に渡って子どもたちの目に留まるように資料を収集する。
- ◇音楽・体育・あそびに関する本も、古典的・基礎的なものだけでなく、現在子どもたちの生活のなかで、関心をもたれている事象については速やかに収集する。

《8 言語》

- ◇言語に関する資料について、日本語に関する諸々のことを収集する。
- ◇英語について、小学生の教育課程にも組み込まれているので、関連して出版されている本を積極的に収集する。
- ◇他の言語についても中学生までの子どもたちに対応できると考えられる本（対訳文がついているなど）の収集に努める。

《9 文学》

- ◇絵本・読み物については、その扱う内容や作者に極端な片寄りのないように収集する。
- ◇しかけ絵本のなかでも、書き込みや切り抜きなど個人で使用することを目的とする絵本などは収集に留意する。
- ◇創作本については、様々な情報収集をし、子どもたちに添うものであると判断できるものを積極的に収集する。
- ◇古典的名作といわれるものや読み継がれている本は計画的に収集する。
- ◇復刊本の案内については、その内容などに留意し、所蔵の有無を確認して収集する。

◇学校団体貸出を踏まえ、各教科関連資料について積極的に収集する。

◇おはなし会の資料という観点での資料収集を行う。

◇ダイジェスト本は、単独本で対応できず、原作を著しく損なわない物であると判断されるものを収集する。

《紙芝居・パネルシアター》

◇物語・生活に密着する題材など、取り扱われている内容を幅広く捉え、表現による対象年齢が幅広く対応できるよう収集する。

3. 郷土資料

子どもたちの郷土理解に供することのできる資料の収集に努める。子どもたち自身が学校等で作成した郷土資料について情報収集や現物収集に努める。

4. 逐次刊行物

新聞・雑誌など子ども対象の逐次刊行物も、情報提示の内容等確認し、積極的に収集

する。

5. LLブック

一般的な墨書資料が活用できない・活用しづらい子どもたちのために、大活字本・録音図書・DAISY図書・点字図書を含めたLLブック<語の説明参照>の収集に努める。それに伴い、利用の促進をはかるための広報、資料収集・提供に関連するボランティアへの支援を含めた連携等、資料活用拡大に向けて努めることとする

6. 電子書籍

電子書籍については、現在、公共図書館での取り扱いの方向性が定まっていない。近隣図書館の動向など情報収集をし、図書館職員等協議を経て取扱いをおこなう。

LLブック・・・読みやすく、わかりやすい本

豊前市立図書館視聴覚資料選定基準

1. 基本方針

音楽史や映画史などで重要であると評価されている資料、作品として評価が高い資料、表現方法が視聴覚資料であることの利点が認められる資料を収集する。

あらゆる世代の利用者の要求に応えられるような幅広い分野、利用するのに何らかの手立てが必要な利用者への配慮がなされている資料など、多様な資料を収集する。

2. 種類・形態別選定基準

《映像資料》

◇著作権処理済みのものを、①貸し出しのみ②貸し出し・視聴許可の別が明示できるようにして収集する。

◇バリアフリー処理（字幕・音声訳）がなされている資料も計画的に収集する。

◇高価な最新作の購入は計画的に行う。

◇映像表現の問題で対象年齢に限定があるものの収集には十分留意する。

◇郷土に関する資料の収集に努める。特に豊前市で製作されたものについては関係機関に協力を請う。

◇ビデオテープ・DVD・ブルーレイといった機器の流通変化に応じて収集を調整することに留意する。

《音楽資料》

◇資料整理の問題から、これまでに引き続きシングル版は収集せずアルバム版の収集に努める。

◇次のジャンルのもののうち代表的なものを中心に収集する。

クラシック、ポピュラー、邦楽、民族音楽（各国）、児童（童謡・アニメ・行事音楽等）、
イージーリスニング

◇あらゆる世代の利用を考慮した内容の収集を心掛ける。